

東京社保協ニュース

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

国民の立場から介護の充実、医療・福祉分野との共有

介護をよくする東京の会総会・介護フォーラムを開催



基調報告する
基安達智さん

5月28日、
介護をよくする東京の会総会・介護フォーラムを開催し、第3期総会とそれに続き「2011介護フォーラム」を開催し64人が参加しました。27日に衆議院厚生労働委員会で、介護保険「改正」案が採決された直後でもあり、参加者は各シンポジストの発言に共感しながら「経済的な不安のない、必要とするすべての人に必要な介護が保障され制度の確立へ向けて現場・利用者の立場から運動を広げること」を確認しました。

「3・11以降『社会保障の自助と共助体制づくり』が加速化している。地域主権改革の名で規制緩和や『自助・共助』がすすめられている。介護保険見直しの理念と同じである」と報告し、「私たちの陣地を強固にして行くこと。地域からのたたかいを進めることが重要」と結びました。各シンポジストは、現場から介護保険「改正」案を検証し、報告しました。

と結びました。
NPO法人地域福祉サービス協会の大野専務は、自らの事業所の経営指標から試算した影響実態を示しながら「要支援者の55%からサービスが取り上げられ訪問介護事業の継続に重大な影響がでる。地域に根差して事業をすすめる非営利の小規模単機能事業所のスクラップ化である」と批判しました。

ルパーの待遇改善を」など怒りの声が出されました。
最後に、「高齢者・障害者の生きている姿、願いを実現する立場での運動を、地域主権・構造改革に反対する共同のたたかいを地域から広げよう」を確認し、介護保険「改正」案を参議院で廃案にしよう！と、参議院への緊急要請FAXを送ることを訴えて終わりました。(フアックス案と名簿は各社保協に送付)



石浜恭子さん



大野茂廣さん



竹森チヤ子さん

フォーラムの基調講演で安達智則氏(都留文科大学講

師)は、「3・11以降『社会保障の自助と共助体制づくり』が加速化している。地域主権改革の名で規制緩和や『自助・共助』がすすめられている。介護保険見直しの理念と同じである」と報告し、「私たちの陣地を強固にして行くこと。地域からのたたかいを進めることが重要」と結びました。各シンポジストは、現場から介護保険「改正」案を検証し、報告しました。

ホームヘルパー全国連絡会の石浜恭子さんは「ホームヘルプが短時間・限定サービスとなり軽度者が切り捨てられる。介護職員処遇改善交付金の継続課題は見送られ、廃止の方向でありホームヘルパー4人に3人が年収150万円未満の『どん底』は改善されない。処遇改善の継続と大幅引き上げを求めよう」と

批判しました。
参加者からは「軽度者の切り捨ては許せない」「へ

東京日本大震災の被災者の方々に心よりお見舞いを申し上げます。東京社保協では、救済募金に取り組み、中央社保協を通じて被災地に届けます。

国保の現状から住民本位の国保運営まで

増刊! 国民健康保険の改善を
好評・2万部を超える普及!
国保ハンドブック2011(1部50円)



国保ハンドブックが好評です。6月・9月議会に向けた草の根の運動に向けて、少人数の学習会から使える学習ハンドブックです。
社会保障としての国保制度の在り方から国保の現状、国の改悪の狙い、地域での闘いのポイントが読みやすい一冊にまとめられています。地域社保協、各団体での活用をお願いします。



労働、年金、法律、健康など切実な相談に対応

社保協・労組・弁護士 共同で相談会

5月21日(土) 北区社保協、東京地評、東京国公、北区労連、東京北法律事務所が共同して「震災に負けるな!労働・生活・震災・行政何でも相談会」を実施しました。

相談会では、労働、登記、税務、年金、法律、生活保護、障害者(児)問題、教育、健康、耐震リフォームの10の相談コーナーを設け、3人の弁護士を含めて相談員を18人配置し行いました。

相談時間は14時から16時でしたが、炎天下のもと28人の相談者が訪れました。特に今日の経済情勢を反映して、生活に直接関わる失業や零細企業の経営の相談が目立ちました。

内容は、震災を

契機に仕事が減っている。緊急連絡先のアドレスを登録しよう会社と言われてきた。不安だ。解雇になったらどこに相談したら良いのか」「失業中。メッキ職人としての技術はある。でも働ける職場が見つからない」「路上生活をしている。生活保護を受けたい」「生活保護を受けている。低家賃で住める公営住宅がないか」「年金の加入期間が足りない。期間が足りないからといって一銭も年金がもらえないなんて納得できない」「会社から退職勧奨を受けている。もめたくない。もめて退職給付が削られるのが心配だ。夫は自己都合退職を迫られている」など切迫した相談が次々に寄せられました。また「借地だが明け渡しを地主に迫られている。期限が来たら明けわたさなきゃならないのか」「母が怪我で入院。3か月で出るように言われている」「父を亡くした。わずかな土地だが相続税が払えるか心配」「健康保険もないので病気が心配」等々、日常の生活不安からの相談もありました。

「今後もこうした相談会を実施してもらいたい」との要望が強く出され、引き続き実施したいと思います。

被災地からきた子どもとともに



5月26日、エデュカス東京において緊急学習会を105人の参加で開催しました。

学習会 学校を安全と安心の拠点

特別支援学校、校寄宿舎指導員の足立喜進さんは、Build東京スポー文化

を離れ不安をもって来た子どもたちも、縦のつながりができきたところだそうです。

他に、転入生を迎えた学校や遠足中に震災に遭遇した学校等からも報告を受けました。

後半は、臨床心理士で埼玉のスクールカウンセラーでもある阿部利恵さんに、心のケアや支援のあり方についての話をうかがいました。

この学習会をスタートに学校を問い直していきます。(都教組・岸田久恵)

シンポジウム

社会保障基本法・憲章の提起を通じて
3.11後の日本で
福祉国家を展望する

【報告者】井上英夫さん(金沢大学教授)
後藤道夫さん(都留文科大学教授)
渡辺治さん(一橋大学名誉教授)

2011年7月10日(日) 13:15~16:30
明治大学リバティーホール 参加費・1,000円

主催・福祉国家と基本法研究会、福祉国家構想研究会

復興へ長い道のり、息の長い支援を

東京自治労連 田川英信

26日J R一ノ関駅から、自治労連の青年集中ゾーンに参加した若者にまじって現地入りしました。朝晩は10℃を切る現地です。持参した寝袋だけで眠りについたものの、少し寒さを感じました。

少しずつ少しずつ片付けや復旧が進んでいます。電波塔が倒れ、使用できなかったソフトバンクも復旧、auも電波状態良好です。



朝7時に全体で打ち合わせ。東京からは、足立・墨田・品川区職労、東水労、介護労、首都圏青年ユニオンなどが参加。本日の作業は、①線路そばの瓦礫の整理、②個人宅の床下清掃・整理・瓦礫撤去等、③ボランティアセンターのスタッフの広報の印刷・配布、など

布、などを全国の72人のボランティアで手分けして行います。



6月4日・5日に種を泥団子にくるんで、イベントとして大々的に蒔こうと計画しています。プロジェクトの中心となっている区長(町会長のような立場)の村上富夫さんの名刺には、

海水の入り込んだ田畑は塩抜きが必要。昨夜「塩害対策・タネっこをまくべえあ」作戦会議が、地域の消防会館で開かれました。とうもろこし、ひまわりは塩分を吸収して生長するので、塩抜きのために植えようというプロジェクトです。

津波にも負けずにただ一本残った松の木をデザインして「がんばっぺし」と書かれています。少しずつ復興に進んでいます。でも、まだ長い道のりです。「タネっこをまくべえあ」プロジェクトも短く、楽になるように、側面からお手伝いしたいものです。

福祉事務所窓口対応の改善要求など 都生連が対都交渉

5480人分の要請書も提出

都生連は5月30日、「対都交渉」を行い、232人の会員が参加しました。

午前中は東京都都市整備局の係長が、午後は都福祉保健局の係長が勢ぞろいしました。まず事前に提出した「都生連の重点要求」への都による回答の



後、参加者から切実な実態が次々と出されました。都市整備局に対しては「なぜ5月

「空き室がたくさんあるのに募集がされていない」「水道の蛇口をレバー式にして欲しい」などの切実なものが出され、現地調査を約束させたものもありました。福祉保健局へは「ある福祉事務所では土曜休日などで医療券を取りに行くことが出来ずに医者にかかったのに『無断で医者にかかったのはダメ』とおこられた」「若者の生保受給者を無料宿泊所に数ヶ月から一年以上も留め置くのは止めるべきだ。精神的におか

学習集會 社保庁解体から1年 不当解雇撤回を早期に！ 今こそ 社会保障の拡充を

2011年7月16日(土) 13:30~16:30 ラパスホール

特別講演 公文 昭夫さん (年金実務センター代表) (葛飾社保協会長)



主催・安心年金つくり東京連絡会・東京社保協・東京地評・年金者組合都本部・東京国公

開催迫る

福祉・防災のまちづくりをすすめる
社会保障の充実でいのちとくらしを守る東京に

第38回 東京社保学校

日時
会場

2011年7月2日
午前10時開会～4時半
けんせつプラザ東京
(東京土建本部会館)



講師の千代崎一夫さん
「夫さんの実態と東京でできること」をテーマに取り上げています。講師に全国防災対連世話人・防災士の千代崎一夫さんをお願いしました。社保学校に先立ち今回の講演のポイントを書いていただきました。

東日本大震災の実態と東京でできること、備えること

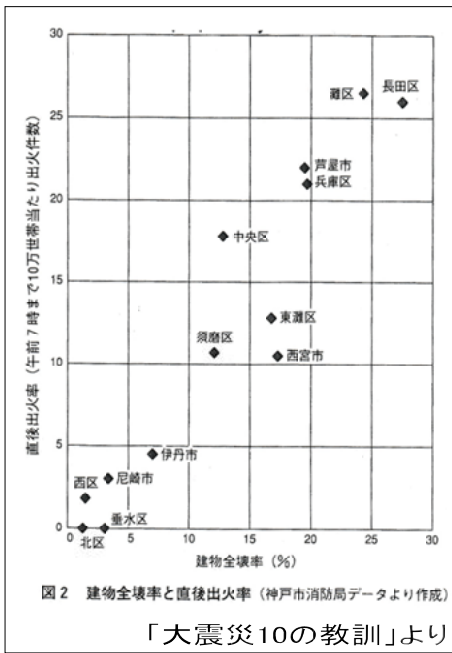
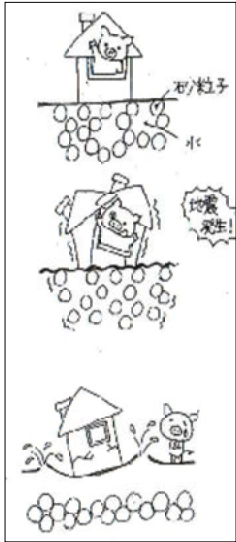
東京電力の原発事故です。

30年間の間に大きな地震が起こる確立は宮城県沖では99%でした。東海を中心起こる確立は87%といわれています。起きては不思議ではないことは間違いないありません。

「第38回 東京社保学校」では、神戸大学教授の二宮厚美教授講演「福祉国家ビジョンの現代的意義」とともに東日本大震災、福島原発事故から「大震災の被害とは大きく違っているのは、今回の震災では今までの災害とは大きく違っているのは、東日本大震災では、震源に近い沿岸部を中心に数百kmの地域に大きな津波で深刻な被害が出ました。建物と周辺にも大きな被害が出ています。被害は東北と関東、首都圏にも及んでいます。液状化現象などの地盤への被害は宮城県地震の時と同じような場所でも発生し、首都圏でも88年前の関東大震災のときと同様に内陸部で川に沿って被害が出ています。

大震災で東京でできることを「まず知る」と「備えること」です。私は地震の発生以来近くでは板橋区、北区、豊島区などの都内、千葉県では浦安市、千葉市、旭市、茨城県では神栖市、鹿嶋市、宮城県では亘理町、岩沼市、名取市、仙台市、石巻市、南三陸町、気仙沼市、岩手県は陸前高田市、住田町を見てきました。知れば支援の仕方を考えるヒントになります。

今回震度5がきた東京で備えることの第1歩は同じ規模の地震があっても被害が出ないよう、少し強くても被害は少なく、もっと大きくても死者は出ないということを目標に考えるべきだと思います。



住まいの安心相談は

- ★火災警報器取り付け
- ★家具転倒防止金具
- ★リフォーム
- ★住まいの何でも相談

東京土建へ

建築士・大工・工務店を中心に専門技術者がそろっています

東京土建一般労働組合
☎ 0120-187-514

当面の日程

- 6月9日 比例定数削減に反対する大集会
なかのZEROホール
- 6月12～13日 中央社保協第55回総会
- 6月15日 国会要請行動 (正午集合)
- 6月17日 都議会開会日
10:00～都知事要請、開会日行動
- 6月26日 10:00～東京自治フォーラム
けんせつプラザ東京
- 6月23日 13:30 第7回常任幹事会